

---

# 遊戯王X D E

ドラゴン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王XDE

### 【Nコード】

N2183Z

### 【作者名】

ドラゴン

### 【あらすじ】

「貴様にこの力が使いこなせるか」その声が全ての始まりだった。ひよんなことから「・NO・」を集めることになってしまった主人公は仲間と協力しながら「・NO・」集めていく。

## プロローグ（前書き）

初投稿です。ですが自分は、文才の才能がないので下手な文かもしれませんがよかったですら見てください。

## プロローグ

### プロローグ

突如、学校の放課後を告げるチャイムが鳴り響いた。

龍驒「さあーて学校も終わったことだし早く帰ってデュエルやろうぜ」

優「はいはいわかりました。どうせいつもの場所に集合でしょ」

龍驒「わかってんじゃん」

いつもの場所と言うのは、駅前の広場にあるデュエルスペースである。

龍驒「ほんじゃーはよこいよ」

優「はいはい」

――駅前広場――

龍驒「おしゃー今日は誰とデュエルしようかな」

優「ほどほどにしろよ」

龍驒「でも最近なかなか皆デュエルしてくれないんだよな」

優「当たり前だこころじゃお前は、滅茶苦茶強いんだからよっぽどの覚悟がないとデュエルはしないだろ」

その時、広場中に男の声が響き渡った。

？「あああああああ」

龍驒「なんだ向こうの方からだ行ってみよう」

優「まてそんなに急ぐな」

声の聞こえたほうに走っていくと男が倒れていた。

龍驒「一体何が」

## プロローグ（後書き）

どうでしたか。デュエルまで持ち込めませんでしたでしたが次回持ち込みますので、よろしくお願ひします。

## キャラ紹介（前書き）

今回は、プロローグに出てきた龍驒と優の説明についてかこうと思います。

## キャラ紹介

キャラ紹介

主人公

桂木 龍驒 かつらぎ りょうた

デッキ：星座デッキ

この話の主人公でありとても明るく誰とでも友達となれる性格です。黄道十二星座がモチーフになったデッキ、星座デッキを使う。

ここらではなのしれたデュエリストでその実力はプロ級である。

ひよんなことから「-NO-」を手に入れてしまい「-NO-」をかけた戦いに参加することになる。

使用する「-NO-」は、「NO-16時間龍タイム・オーバー・ドラゴン」

楠 優 くすのき ゆう

デッキ：ガイアデッキ

龍驒とは幼なじみでよくデュエルをしている。

地属性を主体としたデッキでそのデッキの力は不特定

龍驒と一緒にデュエルをしているうちに龍驒には、及ばないがその実力はプロ級である。

## キャラ紹介（後書き）

なんか説明が短くなりましたがこれでわかったたでしょうか。わからなかったらすいません。

## 第1話 決闘（前書き）

がんばって書きますのでよかったらみてください。

## 第1話 決闘

声の聞こえた方についてみると男が倒れていた。

龍驒「一体何が」

？「この男対したことがなかったな、だが「・NO・」はいただいていくぞ」

その男が何かのカードを倒れている男からとっていく。

？「さてミツシヨンも終わったことだし帰るか」

龍驒「待て、その人に何をした」

？「おまえが知ってどうする、てかおまえだれだ」

龍驒「俺は、桂木 龍驒」

優「何おまえは名乗ってんだよ」

龍驒「うるせえ優、そういうおまえこそ誰だよ」

？「名乗るものでもないじゃあなあ」

龍驒「待てデュエルだ俺が勝ったら全て教える」

？「ああん、なんだよその眼はむかつかないなあ、いいぞやってやろうじゃねえか」

龍驒「そうこなくちや」

優「さて、龍驒冷静になれそいつとデュエルしたらどうなるかわかんねえぞ」

龍驒「そんなことわかってるだがこいつと戦いてえんだ」

優「わかったよ。おまえは自分で言い出したことは、じつこつするやつだからなあ。絶対勝てよ」

龍驒「まかせとけ」

？「準備はいいか始めるぞ」

龍驒・？「決闘 デュエル」

## 第1話 決闘（後書き）

やっとデュエルが始まります次はやっとデュエルです。

## 第2話 混戦（前書き）

やっとデュエルが始まりました。

## 第2話 混戦

龍驒「？」「決闘 デュエル」

龍驒「俺の先攻ドロ」

俺は、モンスターをセット

カードを二枚伏せてターンエンド」

？「俺のターンドロ」

俺はファントム・ビーストを召喚

バトルフェイズ ファントム・ビーストでセットモンスターを  
攻撃」

龍驒「セットモンスターは十二星座 バルゴ

このカードが破壊されたときデッキから十二星座と名のついで  
たモンスター

1体を手札に加える事ができる

この効果でデッキから十二星座 キャンサーを手札に加える」  
？「その程度かカードを2枚伏せてターンエンド」

龍驒 手札4枚

場 伏せカード2枚

？ 手札3枚

場 ファントム・ビースト

伏せカード2枚

龍驒「なんだと俺のターンドロ」

十二星座 キャンサーを召喚

バトルフェイズ 十二星座 キャンサーでファントム・ビーストに攻撃」

十二星座 キャンサー 1600VSファントム・ビースト 1400

？ライフ4000 3800

龍驒「十二星座 キャンサーは1度のバトルフェイズ中に2回攻撃

できる

「キャンサーで二回目攻撃プレイヤーにダイレクトアタック」  
優「よし、この攻撃が通れば大ダメージだ」

## 第2話 混戦（後書き）

なんか中途半端な場所でおわったしまいました

第3話 ・ N O ・ (前書き)

今回やっと ・ N O ・ が登場します

### 第3話 - NO .

龍驒「キャンサーダイレクトアタック」

?「そう、うまくいくとおもふなよ 畏カード オープンディメンシオンウォールこの効果でおまえがダメージを受けてもらう」

龍驒ライフ4000 2400

龍驒「この位のダメージぐらい平気だ ターンエンド」

?「そろそろ本気をだすか俺のターンドロワー ファントム・スライムを召喚」

効果発動1ターンに1度デッキから同名カードを特殊召喚できる こいファントム・スライム」

優「同じレベルのモンスターが2体来るのか」

?「いくぜレベル3のファントム・スライム2体をオーバーレイ

2体のモンスター でオーバーレイネットワークを構築 エクシーズ召喚

来いNO . - 10百銃王 ガトリングビースト」

龍驒「- NO . なんだあのカード」

?「百銃王 ガトリングビーストの効果発動 このカードのエクシーズ素材を一つ 取り除き相手フィールドのカードと相手の墓地のカードの数×100ダメージを 与える つまり400ポイントのダメージを与える」

龍驒ライフ2400 2000

?「バトルフェイズ 百銃王ガトリングビーストでキャンサーに攻撃」

龍驒「畏カードオープン ハーフスター」

第3話 - NO・(後書き)

終わらない

## 第4話 力（前書き）

なんか全然話が進みません

## 第4話 力

龍驒「畏カードオープン ハーフスター このカードは相手モンスター攻撃時発動

相手モンスターの攻撃力を半分にする」

NO・16百銃王 ガトリングビースト 1000VS十二星座  
キャンサー 1600

?ライフ3800 3200

龍驒「よしこれで・NOを倒したぜ案外楽勝」

?「勝手に喜んでろ」

龍驒「何いってんだお前のエースモンスターが破壊せれたんだぞ」

?「そう見えるならそれでいい」

龍驒「ええ」

奴の場を見るとそこには倒したはずの・NOが

龍驒「おいどういことだよそのモンスターは、倒したはずじゃ」

?「あまい・NOは、NOと名のついたモンスターじゃなければ破壊できない」

龍驒「チート効果も対外にしる」

?「まあいいコレでターンエンドだ」

龍驒「俺のターンドロワー モンスターをセット キャンサーを守備表示へ変更 カードを一枚伏せてターンエンド」

?「何も出来ぬようだ俺のターンドロワー この勝負俺の勝ちだ手札から魔法カードファントムチェンジ発動

この効果により相手モンスターの表示形式を全て変更する。

さらに百銃王 ガトリングビーストの効果発動

エクシース素材を取り除き相手のフィールドと相手の墓地のカードの数×100ポイントのダメージを与える」

龍驒ライフ2000 1600

?「それではバトルフェイズガトリングビーストで十二星座 カプ

リコンへ攻撃 ラストガトリング」

龍驒「畏カードオープン 電熱波 手札を任意の数捨てて捨てた枚数かける100ポイント攻撃力をアップする」

十二星座カプリコン100 500

百銃王 ガトリングビースト 2000VS十二星座 カプリコン  
500

龍驒ライフ1600 100

龍驒「このときカプリコンの効果によりデッキから十二星座 ジェミニを手札に」

?「命拾いしたなカードを一枚伏せてターンエンド」

龍驒「ここまでなのか」

??「貴様にこの力が使いこなせるか」

龍驒「誰だ」

そのとき俺の中に何かが入ってきた気がした

龍驒「俺のターンドロ 十二星座ジェミニを召喚 ジェミニの能力でデッキからレベル4光属性モンスターを特殊召喚できる こい十二星座タウロス」

??「さあ私を呼べ」

龍驒「なんだエクストラがこのカードは、-NO何でもいまはこれしかねえ」

レベル4のジェミニとタウロスでオーバレイ 二体のモンスターでオーバレイネットワークを構築エクシーズ召喚 出でよ  
NO-16 時間龍タイムオーバードラゴン」

?「何-NOだと」

龍驒「コレが俺の力いくぞタイムオーバードラゴンの効果発動」

## 第4話 力（後書き）

なんか疲れました。

今回やっと龍驤の・NOを出せました。

## 第5話 - NO・実力

龍驒「タイムオーバードラゴン効果発動 このカードのエクシーズ素材一つ取り除きこのカードと相手フィールドのすべてのモンスターをゲームから除外する」

？「なに」

龍驒「そしてカードを一枚伏せてターンエンド」

？「少しお前をあまく見すぎたようだ改めて名前は」

龍驒「桂木 龍驒」

蓮「俺は林道 蓮 俺のターンドロワー ターンエンド」

龍驒「俺のターンドロワー この瞬間タイムオーバードラゴンの効果で除外したモンスターをフィールドに戻す リバースカードオープン 再度能力 能力により墓地のモンスター1体の効果を得る 俺は星座使い アンドロメダの効果を得る 墓地罫カード怒りの賞効果発動 このカードを除外し自分フィールド上のモンスターの攻撃力に守備力を加える 十二星座 サジタリウスを召喚 アンドロメダの効果を得たタイムオーバードラゴンの効果発動 自分フィールド上の星座とのついたモンスターの攻撃力分アップし相手のカード効果をこのターン受けない」

時間龍 タイムオーバードラゴン 2500 4500 6000

蓮「攻撃力6000」

龍驒「これでとどめだ時間龍タイムオーバードラゴンで百銃王 ガトリングビーストに攻撃 タイムゲート」

蓮「くそーー」

蓮ライフ38000

優「龍驒のやつ勝ちやがった」

龍驒「よっしゃー」

その時、俺のエクストラが光った

龍驒「このカードは」

そこには、NO-10百銃王 ガトリンググビーストがあつた

龍驒「何故俺のエクストラに、ガトリンググビーストが」

蓮「その理由は、NOをデュエル中使いもし相手がNOを持っていて負ければそのカードは奪われる

そしてNOが0になつた時点でその者は消える」

龍驒「そんな じゃあ何でお前は消えてないんだよ」

蓮「それは、俺がまだNOを持っているからだ」

そう言うと蓮は、エクストラからカードを取り出した

蓮「NO-23 空間龍 スペースオーバードラゴンこれが俺の

NO」

龍驒「それじゃあさっきの男は？」

蓮「やはりマダ持つてやがったかNOを

ミツシヨン失敗かそれじゃあな龍驒次は負けないからな」

そついうと蓮は、姿を消していた。

龍驒「林道 蓮かあ 強い相手だったな」

それよりあの時の声なんだつたんだろう

優「龍驒帰るぞ 今日はいろいろありすぎて疲れた」

龍驒「おう」

そつして俺たちは、家に帰つた。

――次の日――

龍驒「どういうことだよ」

そこには、倒れた家族

龍驒「母さん 父さん 秀どうなつてんだよ」

ふと周りを見るとカードが1枚落ちていた。

龍驒「NO-50 ハーフエンドルーラーなんでこんなカードが」

父さん「りよ・・・う・だ」

龍驒「父さん！」

父さん「そのカードを持って早く逃げろ」

龍驒「父さんどういうことだよ」

父さん「奴らが来る前に早く」

という父さんは、俺を外へ追い出した

龍驤「どういことだよ」

父さん「早くいけ」

そついわれて事の重大さにきずいた俺は夢中で走った。

第5話 - NO・実力（後書き）

なんかシリアスな展開になりました。

## 第6話 希望と絶望（前書き）

今回は、父さんサイドの視点があります。  
ちなみに父親の名前は、桂木 真です。

## 第6話 希望と絶望

桂木 真 目線

龍驒が出て行ってすぐのこと

真「やっと龍驒の奴いったかさてと早いとここいつらを倒さないと

ちなみに聞くがお前らは誰だ」

?「……………」

真「答えるわけないかそれじゃあコレでデュエルをつけようか」

?「……………」

そうすると相手もデュエルディスクを出した

真・?「決闘 デュエル」

――10分後――

真「ざつとこんなものか」

そこにはさっきの奴らが倒れている。

真「大丈夫だったか秀 母さん」

母さん・秀「大丈夫」

真「あとは龍驒が上手くやれば」

桂木 龍驒 目線

龍驒「どういうことだったんだ」

そっいいながら走っていると。

?「龍驒……」

優「どうしたんだよ」

そこには優がいた。

龍驒「優なんでお前がここにいるんだよ」

優「なんかむな騒ぎがしてそれより龍驒こそ何をやっているんだよ」

龍驒「それが」

――事情説明中――

優「そんな事があつたんだ　でそのカードていつのは？」

龍驒「このカードなんだけど」

そういつて俺は優にカードを渡した

優「んん」

龍驒「どうしたんだよ」

優「なんか後ろに紙がついてる」

そついうと優は俺に紙を渡した来た

龍驒「これはどういふことだ」

## 第6話 希望と絶望（後書き）

自分もこの先の展開を考えていません ヘルプ

## 第7話 陰謀

龍驒「どういうことだ」

その紙に書かれていたことは、「・NOを全て集めて来いそうすれば世界は救われる」

龍驒「なんだよこの文意味が分からない」

俺は優にその紙を渡すと

優「まあ・NOを集めろってことでしょ」

龍驒「まあ確かにそうだけど」

その時、謎の男が俺たちの前に現れた

？「貴様か蓮を倒したというのは」

龍驒「だれだ」

？「俺は・NOを集めるものそして貴様を倒しに来た」

そういうとその男はデュエルディスクを出してきた

？「デュエルだ龍驒」

龍驒「やってやろうじゃないか」

優「まて龍驒ここは俺にやらせる」

龍驒「何いってんだよお前・NOを回収するんだぞ俺がやらなくてどうする」

優「それなら大丈夫だ」

そういうと優はエクストラからカードを取り出した。

龍驒「そのカードは、・NO何でお前が」

優「ちよつとなと言うわけだ別に俺でもいいだろ」

？「構わないいずれにしろどちらも倒すのだから」

優「とりあえず聞いておく名前は」

？「名前を聞きたいなら自分から名乗るのが筋だろ」

優「楠 優だ」

翔太「久上院 翔太 それじゃあ始めようか」

始まるお互いの命と・NOをかけた戦いが

優・翔太「決闘 デュエル」

## 第7話 陰謀（後書き）

まさかの優も・NOの使い手でした次回は、キャラ紹介といきたいです。

## キャラ紹介2（前書き）

今回は、敵と出てきた・NOについて書きたいと思います。

## キャラ紹介2

キャラ紹介

林道 蓮 りんどう れん 年齢15

デッキ：ファントムデッキ

この話のライバル的な存在の敵です。

その実力は、プロ以上の実力を持つ。

龍驒に負けたことにより、NOを一枚失うものの自分の使う本当の

- NOをまだ持っていた。

幻影・混沌などを主体としたデッキ。

久上院 翔太 くじょういん しょうた 年齢15

デッキ：サイクロンデッキ

- NOを集めている少年林道 蓮とわ何らかのつながりがあるようだがいま不明

風属性を主体としたデッキを使っている。

登場した - NO

NO - 16 時間龍 タイムオーバードラゴン 光

ドラゴン族 ランク4 ATK/2500 DEF/2000

レベル4モンスター×2

このカードのエクシーズ素材を取り除きこのカードと全ての相手モンスターをゲームから除外する。

そのモンスターは、次の自分のスタンバイフェイズにフィールドに戻す。

その時このカードのエクシーズ素材が残っていた場合そのカードの墓地からこのカードの下におく。

NO - 10 百銃王 ガトリンググビースト 光

獣族 ランク3 ATK/2000 DEF/3000

レベル3モンスター×2

1ターンに1度このカードのエクシーズ素材を1つ取り除き発動。  
相手のフィールド上のカードと相手の墓地のカードの数×1000ポ  
イントのダメージを与える。

## 第8話 決闘2（前書き）

今回もPSPからの投稿なので短いです。

## 第8話 決闘2

優・翔太「決闘 デュエル」

優「俺の先攻ドロ― 地獣グランを召喚 地獣グランの効果発動

効果により手札のカードを1枚魔法・罫ゾーンにセットする

さらにカードを1枚伏せてターンエンド」

翔太「俺のターンドロ― サイクロンレーターを召喚

バトルフェイズサイクロンレーターで地獣グランに攻撃」

サイクロンレーター 1600VS地獣グラン 1500

優ライフ4000 3800

優「地獣グランの効果発動このカードが破壊されたときフィールドの魔法・罫ゾーンにあるカードを1枚破壊する このカードの効果で俺のフィールド場の伏せカードを破壊する 破壊されたカード地獣フォースの効果でセットされたこのカードが破壊された時、特殊召喚できる 来い地獣フォース」

翔太「なに！いつの間にそんなカードを第一モンスターを魔法・罫ゾーンに伏せるなんてできるわけがない」

優「それができるんだよ。いやできたんだよこのカードを使えば」  
そう言うつと優は、地獣グランを見せてきた。

翔太「そう言えばあの時 まあいいカードを1枚伏せてターンエンド」

第8話 決闘2（後書き）

優 ライフ3800 手札3枚

場 地獣フォース 伏せカード1枚

翔太 ライフ4000 手札4枚

場 サイクロンレーター 伏せカード1枚

## 第9話 - NO

翔太「そう言えばあの時、まあいいカードを1枚伏せてターンエンド」

龍驤「優の奴あんな戦術もできたのかよ！」

優「俺のターンドロ、掘削員Aを召喚、掘削員Aの効果発動このカードの召喚時、自分フィールドにこのカード以外の 地属性が存在する場合デッキから、掘削員Bを特殊召喚できる。現れる、掘削員B」

龍驤「同じレベルのモンスターが2体やるのか優！」

優「俺は、レベル4の掘削員AとBをオーバーレイ2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築」

エクシーズ召喚 現れよ、地底龍ガイアドラグリーン」

翔太「なに・NOじゃない。何故・NOを出さない」

優「まあそうあわてるな、次期に・NOは、出すから」

バトルフェイズ 地底龍ガイアドラグリーンでサイクロンレーターを攻撃」

翔太「あまい、罨カードオープン 大突風」

効果により攻撃してきたモンスターを手札に戻す。」

優「そうはさせない、地底龍ガイアドラグーンの効果発動」

効果によりこのカードのエクシーズ素材を1つ取り除き、このカードを裏側守備表示変更する」

翔太「ちい逃げられたか」

優「カードを一枚伏せてターンエンド」

龍驤「あのモンスターあんな効果があったんだ」

翔太「調子に乗るなよ、俺のターンドロ、サイクロンレーターを召喚」

いくぜレベル3のサイクロンレーター2体でオーバーレイ2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築」

エクシーズ召喚 いでよ、NO-34新風鳥 月花」

優「出てきたか-NO」

翔太「新風鳥 月花の効果発動

このカードのエクシーズ素材を1つ取り除き、フィールド場のカードを2枚まで破壊又は手札に戻す

この効果で伏せカード2枚を破壊する。サイクロンフェニックス

まだまだ、バトルフェイズ新風鳥 月花でセットモンスターに攻撃」

NO-34新風鳥 月花 2700VS地底龍ガイアドラグーン  
2400

優「地底龍ガイアドラグーンの効果発動、このカードは、裏側守備表示で攻撃された時このカードは、破壊されない」

翔太「ちい、命拾いしたな。まあ次のターン破壊すればいいこと、カードを2枚伏せてターンエンド」

優 ライフ3800 手札2枚

場 地獣フォース 地底龍ガイアドラグーン

翔太 ライフ4000 手札2枚

場 NO-34新風鳥 月花 伏せカード2枚

優「お前にもう次のターンは、こない俺のターンでこのデュエルは、終了だ」

第9話 - NO（後書き）

段々と優のキャラが崩れてきました。

## 第10話 波乱(前書き)

今回もPSPからの投稿なので文が短いのでそこそこは了承してください。

## 第10話 波乱

優「お前にもう次のターンは、こない俺のターンでこのデュエルは、終了だ」

翔太「お前は、何を言っているんだ俺のライフは、まだ4000あるんだぞ」

龍驤「そうだぞ優、しかもお前の手札は2枚しかないんだぞ」

優「大丈夫だ、俺のターンドロ、地獣チェンジャーを召喚、さらに魔法カード発動、地底探索、効果によりデッキから地獣と名のついたモンスターの攻撃力を0にして特殊召喚する。現れる 地獣チェンジャーを守備表示で特殊召喚。さらに2体の地獣チェンジャーの効果発動

効果によりこのカードのレベルを二つあげる。よって2体の地獣チェンジャーのレベルを6にする」

翔太「レベル6のモンスターが3体まさか」

優「そのまさかだよ。俺はレベル6の地獣フォースと地獣チェンジャー2体でオーバーレイ2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築

エクシーズ召喚、いでよ、NO.73地底神 グランドエンド」

翔太「ついにおでましか・NO.」

優「地底神 グランドエンドの効果発動」

## 第11話 決着

優「地底神 グランエンドの効果発動

このカードのエクシーズ素材を、1つ取り除き相手フィールドの全てのモンスターを裏側守備表示に変更する

さらに、このカードが存在する限り、セットカードを発動できない」

翔太「なに!!!」

優「さらに、魔法カード発動 掘削ドリル

効果により、自分フィールドのモンスター全てに貫通効果を与える。

バトルフェイズ、NO・-73地底神 グランエンドでセット  
モンスターに攻撃」

NO・-73地底神 グランエンド 2800（貫通）VSNO・-  
34新風鳥 月花 2400

翔太ライフ4000 3600

優「さらに地底龍ガイアドラゲーンでダイレクトアタック」

翔太 3600VS地底龍ガイアドラゲーン

翔太ライフ3600 1200

翔太「くそっ、だが俺のライフを全て削れたワケじゃない、次のターンで逆転してやるよ」

優「だから、いっただる次のお前のターンはない、墓地罫カード発動」

翔太「なにっ!!!墓地罫だと」

優「罫カード、第2陣を墓地から除外その効果により、自分フィールドのモンスター1体を墓地に送り、

自分フィールドのモンスター1体は、このターン2回攻撃が出る。よって、地底龍ガイアドラゲーンを墓地に送り

地底神 グランエンドを2回攻撃にする」

翔太「なにっ！！！！」

優「これで終わりです。いけ、NO。 - 73 地底神 グランエンド、ダイレクトアタック ゴッドクエイク」

翔太「うわああああ」

翔太ライフ120000

優「ふう、勝ったかそれじゃあ、お前の・NO・は頂いてくぞ」

翔太「まってくれ。俺はまだ消えたくない」

そう言い放つと翔太は、姿を消した。

龍驒「何だよ、この展開は、何で消えなきゃならないんだよ」

優「そうゆう定めだからさ」

龍驒「そんなモン俺がブチ壊してやるよ」

その時、俺のエクストラが光った。

龍驒「なんだよ、この光は」

その光は、徐々に、広がっていき最後には、俺と優をつつみこんだ。

龍驒・優「うあああああああ」

## 第12話 能力(前書き)

今回は、・NO・を集めると、どうなるかについて書きたいと思います。

## 第12話 能力

前回のあらすじ

優VS翔太で優が勝利したそれにより翔太の体は、消滅そのとき龍驒のエクストラが光りその光に龍驒と優が包み込まれた。

龍驒「こ・・・ここは」

そこには、一面なにもない世界が広がっていた。

龍驒「ここは、どこだ。そう言えば優がない。優ーーー 優ーーー  
ーどこだ優」

叫んでみるもそこには、静寂しかない。

?「なんでお前がこんな場所に、まあこれが・NO・の定めか」

龍驒「誰だ!!!」

後ろを振り返ってみるとそこにはいるはずのないやつがいた。

龍驒「なっとなっとな何でお前がいるんだよ。」

そこにいたのは、俺の幼なじみである影山 源がいた。

源「落ち着け龍驒まずは、聞きたいことがある。お前は・NO・を  
持っているのか」

龍驒「ああ持つてるけどそれがどうしたんだ。てか何でお前こそい  
るんだ」

源「そんなことは、あとだ。おまえは、・NO・が何かわかってい  
るのか」

源の言葉に俺は、カチンときた。

龍驒「あああそんなこと知らねえよ。突然デュエル中に手に入れた  
んだから」

源「そうか、それならお前は、知らないみたいだな・NO・をすべ  
て集めると、どうなるのかを」

龍驒「なにが起きるんだよ」

### 第13話 空想世界（前書き）

今回は、龍驒たちがおとずれた世界についてかこうと思います。

### 第13話 空想世界

源「そうか、それならお前は、知らないみたいだな・NO・をすべ  
て集めると、どうなるのかを」

龍驒「なにが起きるんだよ」

源「全ての・NO・を集めると願いが叶えられるんだ」

龍驒「はあ、ちよつとまてよ」

源「だから、願いが叶うんだよ」

龍驒「ちよつと整理させてくれ」

俺は、父さんに・NO・を集めろといわれた。それがこんな理由っ  
てどういうことだよ。

龍驒「よし、大丈夫だ。でも願いを叶えるってなんでそんなことな  
んだよ」

源「俺が知ってるわけないだろ。まあとりあえずこの世界の説明も  
ついでにするか。」

この世界は、NO・と名のついたカードを持つものが来られる  
世界だ」

龍驒「もう、ワケが分からないな」

源「大丈夫だ。俺も同じ意見だから。とりあえず向こうの街まで行  
つてみるか」

龍驒「街??」

源「まあついてこい」

そういわれるがままについていくとそこには、でかい街があった。

龍驒「この世界は、なんでもありだな」

その街を見渡した見ると聞き覚えのある声が。

優「龍驒ー」

龍驒「優！無事だったのか」

優「なんとかなつてか何でお前が居るんだ源」

源「まあなりゆきと・NO・のせいかなあ」

優「へええー」

源「そういあ言い忘れてたことがあつたんだ。この世界でNO・同士の戦闘で敗れても消滅は、しないんだ」

龍驒・優「えええええー」

源「でもNO・を持たないものは、この世界から追放される。あと

龍驒・優、俺と一緒に・NO・を集めてくれ」

龍驒「なんかいきなりとうとつだな」

源「頼む、お前だから頼むんだよ」

優「でも、最後には、1人しかもてないんだぜ」

源「その時は、その時だ」

龍驒「まあいいけど。優もどうせいいだろ」

優「まああ」

源「よし、それじゃあ・NO・を全て集めるぞー」

龍驒・優「おおおおー」

こうして俺と優と源で・NO・をあつめることになった。

？「ずに、のるなよ。クソガキども。貴様らが集められるわけない。集めるのは、俺たちだ。」

## 第14話 決闘開始

前回まであらずじ

俺と優は、空想世界に飛ばされてそこで源と再開。

その世界は、NO. を持つものしか入れない世界

龍驒「・・・んん・・・」

カーテンの隙間から太陽の光が入ってきた。

龍驒「もう朝か。俺は、いつの間に眠りについたんだ。

まあ覚えてるわけないけどな。あんなことがあったんだからなあ」

あんなことと言うのは、空想世界の話である。

龍驒「とりあえずいつもの場所に行くか」

「――駅前広場――」

優「龍驒、来たか」

龍驒「来たかって何だよ」

優「いくぞあそこへ」

龍驒「行くぞって何所へだよ？」

優「そんなもん決まってるだろ。」

龍驒「まさか!?!」

優「そのまさかだよ。ほらいくぞ」

龍驒「お・・・おう」

そついうと優は、NO. を取り出した。

龍驒「何をやってんだよ？」

優「ああ聞いてなかったのか。コレが空想世界に行くゲートなんだよ」

龍驒「へえーそうなんだ」

優「いくぞ」

龍驒「おう」

そういうと俺と優は、光に包まれていった。

――空想世界――

龍驒「はぁーやっとなつた」

優「結構長かったなあ」

そんな会話をしていると俺らを呼ぶ声が出た。

源「龍驒ー優ー」

龍驒「でけえ声出すんじゃネエよ。はずかしい」

源「すまない、でも早く集めネエと」

そういうと源は、俺のほうに必要以上によつてきた。

龍驒「分かったから顔を近づけるのをやめろ」

源「ほんとかあでどうする」

そういつているとある一人の少年が声をかけてきた。

？「あの龍驒さんですよなあ」

龍驒「ああそうだけどもきみは？」

優希「自分は、優希って言います。よろしくお願いします」

龍驒「おうよろしくな」

へえーこんな時代に珍しいなこの子は。

優希「早速ですが自分とデュエルしてください。蓮さんを倒した実力が本物か自分で確かめていんです」

龍驒「おしやるうぜ」

優「（心の声）蓮ということは、なんかありそうだけど大丈夫だろ」

龍驒「いくぞ優希」

優希「いつでもどうぞ」

（心の声）これで俺の元にNO.16が手に入る」

カチャ

龍驒「なんか音がした気がするけど気のせいかな。いくぞ」

龍驒・優希「決闘 デュエル」

このデュエルが今後の俺たちのデュエルを左右することになるとは、  
まだだれも知らない

## 第14話 決闘開始（後書き）

デュエルが開始されました。

優希が何かを隠しているのは、明白ですよね。

ちなみに、影山 源の名前の読み方は、”かげやま みなと”なの  
で”かげやま げん”では、ありません。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2183z/>

---

遊戯王XDE

2011年12月14日17時50分発行